

病害虫発生予察 7 月月報
(生育概況及び病害虫の調査結果)

令和 7 年 7 月の気象表 (長野地方気象台発表)

官署等		平均気温 ℃			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
長野	本年	27.0	27.3	28.6	3.0	15.0	4.0	74.3	82.2	121.9
	平年	23.1	24.0	25.6	52.9	50.4	34.4	46.8	50.8	71.2
松本	本年	26.3	25.9	26.9	41.5	41.0	15.5	71.8	74.8	114.0
	平年	23.2	24.1	25.2	56.6	46.2	28.5	48.5	54.1	72.3
諏訪	本年	25.5	24.1	26.6	58.0	96.0	9.0	67.9	73.8	109.6
	平年	22.1	23.2	24.3	83.7	68.2	42.2	45.8	53.0	70.7
軽井沢	本年	22.2	20.4	22.7	112.0	69.0	47.5	60.2	56.1	104.0
	平年	19.0	20.1	21.0	72.7	63.7	55.5	38.4	44.2	56.5
飯田	本年	26.8	25.1	27.4	10.5	114.0	32.0	66.9	67.3	97.5
	平年	23.3	24.3	25.5	96.1	94.3	49.7	43.0	52.1	71.1

高気圧に覆われて晴れた日が多くなったが、上空の寒気や日中の昇温により大気の状態が不安定となり雨や雷雨となった日があった。

また、月平均気温、日最高気温、日最低気温が 7 月としての 1 位となった地点が複数あった。

なお、気象庁は「関東甲信地方（長野県を含む）が、7 月 18 日頃に梅雨明けしたと見られる。」と発表した（速報値）。これは平年より 1 日早く（平年は 7 月 19 日頃）、前年と同じ日の梅雨明けであった。

1 水 稲

(1) 生育概況

水稻の生育概況につきましては、農業試験場ホームページ内の「生育調査」欄に掲載されている「水稻の生育状況（令和 7 年度）」をご参照ください。

農業試験場ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/teirei/index.html>)

(2) 病害虫の発生状況

①いもち病

AMeDAS データによる葉いもち感染好適条件の判定（BLASTAM）では、6 月～7 月上旬までの感染好適条件の出現数が平年と比べ多かった（第 1 表）。また、巡回調査により、一部のほ場で 7 月上旬から中旬にかけて葉いもち発病株率の急増を確認した。

そこで、全県でいもち病が多発する恐れがあることから、令和 7 年 7 月 17 日付けで「令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 3 号（イネいもち病）」を発表し、注意喚起した。

第 1 表 BLASTAM による葉いもち感染好適条件の 7 月の出現回数

地域		東信	南信	中信	北信	全県
アメダス地点数		5	8	9	5	27
6 月 1 日 ～	平 年	3.4	6.2	4.8	3.2	17.4
	本 年	4	9	8	4	25
6 月 30 日	平年比 (%)	117.6	145.2	173.9	125.0	143.7
7 月 1 日 ～	平 年	5.4	6.0	7.9	6.6	25.9
	本 年	3	10	14	4	31
7 月 10 日	平年比 (%)	55.6	166.7	177.2	60.6	119.7

※BLASTAM の判定結果は、JPP-NET（一般社団法人日本植物防疫協会）から引用

平年は 2015 年から 2024 年までの平均値

②紋枯病

7 月下旬の巡回調査では、東信地域、北信地域の一部のほ場で平年と比べ発生が多かったが、全般にはやや少なかった。

③白葉枯病・黄化萎縮病・黄萎病

7 月下旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

④ばか苗病

7 月下旬の巡回調査では発生は確認されなかったものの、調査地点以外の一部ほ場において発生がみられた。

⑤ヒメトビウンカ

7月下旬に実施した巡回調査（ネット20回振）では、成虫及び幼虫の捕獲頭数は全般に平年と比べ多かった。

⑥ツマグロヨコバイ

7月下旬に実施した巡回調査（ネット20回振）では、成虫及び幼虫の捕獲頭数は全般に平年と比べ多かった。

⑦イネドロオイムシ

7月上旬の巡回調査では、東信地域の一部で食害が多かったが、全般には平年と比べ少なかった。

⑧セジロウンカ

7月下旬の巡回調査（ネット20回振）では、成虫及び幼虫の捕獲頭数は全般に平年と比べ少なかった。

⑨トビロウンカ

7月下旬の巡回調査及び予察灯の誘殺調査では、発生はみられなかった。

⑩イナゴ

7月下旬の巡回調査（ネット20回振）での捕獲頭数は、全般に平年と比べ少なかった。

⑪フタオビコヤガ（イネアオムシ）

7月下旬の巡回調査（ネット20回振）での捕獲頭数は、全般に平年と比べ少なかった。

⑫イチモンジセセリ（イネツトムシ）

千曲市における黄色粘着トラップを用いた誘殺調査では、誘殺開始時期は7月第1半旬であった。第1世代成虫の発生最盛期は、7月第4半旬で平年と比べ1半旬早かった。誘殺頭数は、平年と比べやや少なかった（第2表）。

第2表 イチモンジセセリ成虫の黄色粘着トラップ誘殺消長（頭） 千曲市

区分	7月						8月
	1	2	3	4	5	6	
平 年	0.2	1.9	9.9	14.4	17.7	7.3	5.6
本 年	1	2	7	13	11	7	3

黄色粘着版1, 200cm² (20cm×20cm×3枚) 当たりの誘殺数
平年は2015年から2024年までの平均値

⑬カメムシ類

予察灯調査（全6地点）でのアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺頭数は、全般に平年と比べ多く、またアカスジカスミカメの誘殺頭数は平年と比べかなり多かった。

7月上旬に実施した本田でのすくい取り調査（ネット20回振）では、斑点米カメムシ類の捕獲地点率が全域で69.4%（平年38.2%）と高く、1地点あたりの平均捕獲頭数も6.06頭（平年1.11頭）と多かった。

県内における主要種であるアカヒゲホソミドリカスミカメに加え、アカスジカスミカメの捕獲が目立った（第3表）。

そこで、全県で斑点米カメムシ類が多発する恐れがあることから、令和7年7月14日付けで「令和7年度病害虫発生予察注意報第2号（斑点米カメムシ類）」を発表し、注意喚起した。

第3表 7月上旬の本田すくい取り調査による斑点米カメムシ類の捕獲内容

地域	調査 地点数	捕獲地点率 (%)		平均捕獲頭数 (頭)		種別捕獲頭数合計(頭)					
		平年	本年	平年	本年	計	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホ ソミドリカスミ カメ	ホソハリ カメムシ	アカヒメハ リカメムシ	トゲシロホシ カメムシ類
東信	15	41.2	93.3	1.25	2.40	36	1	35	0	0	0
南信	15	28.9	46.7	0.57	1.47	22	0	12	10	0	0
中信	18	42.1	61.1	1.24	15.94	287	189	81	12	4	1
北信	14	39.8	78.6	1.33	2.21	31	2	29	0	0	0
県全体	62	38.2	69.4	1.11	6.06	376	192	157	22	4	1

（注1）調査方法：本田において、すくい取り（ネット20回振）で捕獲された斑点米カメムシ類（成虫及び幼虫）を調査

（注2）捕獲地点率（%）：調査地点のうち斑点米カメムシ類が捕獲された地点の割合。

（注3）平均捕獲頭数：捕獲頭数計（成虫数＋幼虫数）÷調査地点数

（注4）平年：2015年～2024年の平均値

（注5）トゲシロホシカメムシ類：トゲシロホシカメムシ、オオトゲシロホシカメムシ、シロホシカメムシ

7月下旬に実施した本田でのすくい取り調査（ネット20回振）では、斑点米カメムシ類の捕獲地点率が全域で58.1%（平年19.3%）と高く、1地点あたりの平均捕獲頭数も2.77頭（平年0.40頭）と多かった。

県内における主要種であるアカヒゲホソミドリカスミカメに加え、ホソハリカメムシ及びアカスジカスミカメの捕獲が目立った（第4表）。

第4表 7月下旬の本田すくい取り調査による斑点米カメムシ類の捕獲状況

地域	調査 地点数	捕獲地点率 (%)		平均捕獲頭数 (頭)		種別捕獲頭数合計(頭)					
		平成	令和	平成	令和	計	ホソハ カメムシ	アカシ カメムシ	アカヒゲ ミドリカ メ	トゲシラ ホシカ メ	アカヒメ カメムシ
東信	15	10.6	53.3	0.18	0.87	13	7	3	2	1	0
南信	15	26.9	60.0	0.61	4.73	71	42	27	1	0	1
中信	18	27.4	61.1	0.65	4.22	76	21	35	13	4	3
北信	14	9.4	57.1	0.10	0.86	12	1	4	7	0	0
県全体	62	19.3	58.1	0.40	2.77	172	71	69	23	5	4

※注意事項は第3表に同じ

果樹の生育概況

令和7年産の果樹生育概況は、果樹試験場ホームページの定例調査にある「令和7年の生態調査結果」および南信農業試験場ホームページの調査速報にある「令和7年果樹生態調査」を参照ください。

果樹試験場ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/kajushiken/chosa/teirei/index.html>)

南信農業試験場ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nannoshiken/joho/sokuho/index.html>)

2 りんご

(1) 病害虫の発生状況

①褐斑病

巡回調査では、中信地域、北信地域の一部のは場で発生がみられ、発生量は平成並～やや少なかった。

②黒星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

③斑点落葉病

巡回調査では、東信地域、中信地域、北信地域の一部のは場で発生がみられ、発生量は平成並～やや少なかった。

④黒点病

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑤キンモンホソガ

巡回調査では、南信地域、中信地域、北信地域の一部のは場で寄生葉（マイン）がみられ、被害葉率は平成並であった。

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査による誘殺頭数は、7月第1半旬は平成と比べ多かったが、第2半旬以降は平成並～やや少なかった（第1表）。

第1表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平成	75.7	193.9	295.3	284.0	264.4	180.7
前年	143	849	724	279	156	30
本年	228	178	320	246	98	69

平成は2015年から2024年までの平均値

⑥シンクイムシ類

巡回調査では、果実への被害はみられなかった。

須坂市（果樹試験場）のモモシンクイガのフェロモントラップ調査では、7月の総誘殺頭数は、平成と比べ多かった（第2表）。

須坂市（果樹試験場）のスモモヒメシンクイのフェロモントラップ調査では、平成並であった（第3表）。

第2表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平成	8.3	2.7	0.7	1.6	4.3	6.1
前年	7	8	0	4	9	13
本年	8	16	15	3	2	12

平成は2015年から2024年までの平均値

第3表 スモモヒメシクイのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	4.1	2.5	1.7	3.9	5.8	17.3
前年	1	1	0	4	2	15
本年	2	5	0	1	3	6

平年は2015年から2024年までの平均値

⑦ハダニ類

巡回調査では、リンゴハダニ、ナミハダニの寄生が、県下全域でみられたが発生程度には場間の差があり、南信地域の一部では寄生数は平年と比べ多かった。

⑧リンゴコカクモンハマキ

巡回調査では、新梢の被害はみられなかった。
須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる調査では、平年並であった。

第4表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	7月					
	1	2	3	4	5	6
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0	0.2	0	0	0	0
前年	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	1	0	1

平年は2015年から2024年までの平均値

3 な し

(1) 病害虫の発生状況

①赤星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

②黒星病

巡回調査では、発生はみられなかった。
高森町（南信農業試験場）の調査では、殺菌剤無散布の果実の発病率は平年より低かった。果そう葉の発病率についても平年と比べ低かった（第1、2表）。

第1表 果実の発病（％）
高森町（南信農業試験場）

区分	6月			7月			8月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	40.4	49.5	54.6	69.3	80.7	85.5	94.8
前年	1.2	1.2	21.7	22.1	59.7	81.3	93.0
本年	1.8	4.4	6.0	6.9	14.5	25.9	24.3

平年は2015年から2024年までの平均値
「幸水」の殺菌剤無散布樹で調査

第2表 果そう葉の発病（％）
高森町（南信農業試験場）

区分	5月			6月		
	5日	15日	25日	5日	15日	25日
平年	1.4	5.7	21.1	35.7	51.8	60.5
前年	0	0	4.0	6.9	5.9	17.8
本年	0	0	0.5	0.9	7.8	6.5

平年は2015年から2024年までの平均値
「幸水」の殺菌剤無散布樹で調査

③黒斑病

巡回調査では、発生はみられなかった。
高森町（南信農業試験場）の調査では、アルタナリア属菌の孢子捕捉数は、平年と比べ多かった（第3表）。
高森町（南信農業試験場）の調査では、殺菌剤無散布の果実の発病は6月上旬からみられ、発病率は平年と比べやや多かった。また、新梢葉の発病は平年並であった（第4、5表）。

第3表 アルタナリア属菌の捕捉孢子数（個）
高森町（南信農業試験場）

区分	6月			7月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
平年	40.0	59.1	47.5	31.4	20.2	17.1
前年	59	25	73	22	11	16
本年	44	73	99	88	61	32

平年は2015年から2024年までの平均値、2023年から旬毎の調査に変更
表中の数字は18mm×18mm当たりの孢子数（個）

第4表 果実の発病（％）

高森町（南信農業試験場）							
区分	6月			7月			8月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	4.6	9.6	23.5	43.6	75.0	86.9	90.1
前年	9.5	11.1	45	65.4	95.8	96.3	—※
本年	12.0	35.3	54.5	55.6	96.5	97.4	98.1

平年は2015年から2024年までの平均値

※は黒斑病による落果が増加したため調査終了
「二十世紀」の殺菌剤無散布樹で調査

第5表 新梢葉の発病（％）

高森町（南信農業試験場）							
区分	6月			7月			8月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	7.1	11.5	22.7	30.9	41.7	52.3	55.5
前年	11.4	10.5	17.5	21.1	22.8	35.3	47.3
本年	7.4	19.1	27.5	32.0	44.5	50.2	61.9

平年は2015年から2024年の平均値

「二十世紀」の殺菌剤無散布樹で調査

④カメムシ類

巡回調査では、被害果はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、クサギカメムシ、チャバネアオカメムシともに平年と比べ多かった（第6表）。

第6表 カメムシ類のフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

高森町（南信農業試験場）								
区分	月	7月						8月
	半旬	1	2	3	4	5	6	1
クサギカメムシ	平年	0.1	0.1	0.3	0.5	0.2	0.4	0.3
	前年	0	1	1	3	0	1	0
	本年	0	0	0	1	1	4	0
チャバネアオカメムシ	平年	10.2	15.7	12.3	16.5	16.7	9.6	21.5
	前年	36	90	20	69	45	60	59
	本年	40	31	9	31	45	35	43

平年は2015年から2024年までの平均値

⑤ナシヒメシシクイ

巡回調査では、被害果はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）でのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ多かった（第7表）。

第7表 ナシヒメシシクイのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

高森町（南信農業試験場）						
区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0.6	0.7	3.2	3.5	3.1	3.4
前年	0.5	1.0	15.5	12.5	1.0	11.5
本年	1.5	3.5	3.0	7.0	7.0	9.5

平年は2015年から2024年までの平均値

⑥ハダニ類

巡回調査では、南信地域、中信地地域の一部のは場で、ナミハダニの発生がみられ、発生地点数は平年並であったが、発生量は平年と比べやや多かった。

⑦リンゴコカクモンハマキ

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった（第8表）。

第8表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

高森町（南信農業試験場）						
区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0	0	0.1	0.2	0.6	0.2
前年	0	0	0	0	1	0
本年	0	0	1	0	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

4 も も

(1) 病害虫の発生状況

①せん孔細菌病

巡回調査では、全県で葉への発病が認められたが、果実への発病はみられなかった。

②灰星病

巡回調査では、東信地域の一部で発病がみられた。

③黒星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

④シンクイムシ類

巡回調査では、果実への被害はみられなかった。

⑤ハマキムシ類

巡回調査では、新梢や果実への被害はみられなかった。

⑥モモハモグリガ

巡回調査では、被害葉はみられなかった。

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査による誘殺頭数は、平年と比べ少なかった（第1表）。

第1表 モモハモグリガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	50.7	61.4	79.1	48.4	17.8	61.0
前年	4	2	1	6	4	12
本年	1	4	0	0	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

⑦ハダニ類

巡回調査では、東信地域の一部と北信地域の広範囲において葉への寄生がみられた。

5 ぶどう

(1) 病害虫の発生状況

①さび病

巡回調査では、発生はみられなかった。

②べと病

巡回調査では、発生はみられなかった。

③黒とう病

巡回調査では、発生はみられなかった。

④クビアカスカシバ

小布施町のフェロモントラップによる誘殺頭数は、7月第4、5半旬を除き、平年と比べ多かった（第1表）。

第1表 クビアカスカシバのフェロモントラップによる誘殺消長（頭） 小布施町

区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	11.9	11.0	9.0	16.0	4.0	1.0
前年	5	13	11	6	4	4
本年	39	17	10	6	4	4

平年は2015年から2024年までの平均値

⑦チャノキイロアザミウマ

巡回調査では、被害葉はみられなかった。

6 か き

(1) 病害虫の発生状況

①うどんこ病

巡回調査では、発生がみられなかった。

②円星落葉病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）での胞子飛散状況は、平年と比べ少なかった（第1表）。

第1表 カキ円星落葉病の子のう胞子の捕捉数
高森町（南信農業試験場）

区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	57.9	57.2	70.2	28.5	30.1	33.4
前年	19.2	1.0	40.7	17.0	7.0	8.4
本年	61.0	23.0	40.7	15.8	4.1	2.9

表中の数字は18mm×18mm当たりの胞子数（×1000個）

平年は2015年から2024年までの平均値

④カキクタアザミウマ

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑤ハマキムシ類

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑥フジコナカイガラムシ

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は平年と比べ少なかった（第2表）。

第2表 フジコナカイガラムシのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	7月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0.7	2.0	8.1	37.9	48.6	48.8
前年	1	2	14	100	17	87
本年	2	5	19	7	10	5

平年は2015年から2024年までの平均値

7 野菜・花き

（1）病害虫の発生状況

①トマトの病害虫

巡回調査では、東信地域の露地栽培でCMVの感染株、アザミウマ類の寄生、オオタバコガの被害、南信地域の露地栽培（ジュース用）でアブラムシ類の寄生、オオタバコガの被害、中信地域の露地栽培（ジュース用）で灰色かび病の発生、アザミウマ類の寄生、オオタバコガの被害、北信地域の施設栽培でオンシツコナジラミの寄生がみられた。

②きゅうりの病害虫

巡回調査では、南信地域の施設栽培でアザミウマ類、オンシツコナジラミ、北信地域の施設栽培でうどんこ病の発生、アザミウマ類、オンシツコナジラミ、ハダニ類の寄生、露地栽培でアザミウマ類、アブラムシ類の寄生がみられた。

③すいかの病害虫

巡回調査では、病害虫の発生はみられなかった。

④いちごの病害虫

巡回調査では、アザミウマ類、ハダニ類の寄生がみられた。

⑤キャベツの病害虫

巡回調査では、東信地域でウワバ類等チョウ目害虫の被害、一部のほ場で株腐病、黒腐病の発生、南信地域で軟腐病の発生、中信地域で軟腐病の発生、ウワバ類等チョウ目害虫の被害、北信地域で黒腐病、黒斑細菌病の発生、ウワバ類等チョウ目害虫の被害がみられた。

⑥ブロッコリーの病害虫

巡回調査では、東信地域でチョウ目害虫被害、一部のほ場で黒腐病の発生がみられた。

⑦はくさいの病害虫

巡回調査では、東信地域の一部のほ場でチョウ目害虫の被害がみられた。

⑧レタスの病害虫

巡回調査では、全調査地点ですそ枯病の発生がみられた。

また、東信地域の一部のほ場で斑点細菌病、中信地域で軟腐病の発生がみられた。

⑨アスパラガスの病害虫

巡回調査では、全調査地点でアザミウマ類の寄生がみられた。

また、東信地域の露地栽培、南信地域の雨よけ栽培の一部ほ場、中信地域の露地栽培、北信地域の雨よけ栽培、露地栽培で茎枯病の発生がみられた。

北信地域の雨よけ栽培では、ハダニ類の寄生株率が高かった。

⑩ねぎの病害虫

巡回調査では、全調査ほ場（南信地域、中信地域）で黒斑病の発生、アザミウマ類、ネギハモグリバエの被害、ネギコガの寄生がみられた。

また、南信地域ではさび病の発生がみられた。

⑪さくしの病害虫

巡回調査では、病害虫の発生はみられなかった。

⑫コナガ（アブラナ科野菜）

フェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市、小諸市、上田市、長野市では全般に平年と比べ少なかったが、朝日村では全般に平年と比べ多かった。

原村では、第1～第4半旬は平年と比べて多く、第5、第6半旬は平年並～少なかった（第1表）。

第1表 コナガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	16.6	12.6	15.3	18.5	16.9	12.9
		本年	4	3	2	6	3	1
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	24.8	36.8	36.9	25.1	23.7	17.6
		本年	22	28	19	17	11	14
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	5.1	4.5	5.1	4.5	6.6	6.4
		本年	7	1	1	3	2	2
原村判之木 （防除適期決定ほ）	ブロッコリー	平年	37.3	41.2	39.0	50.0	48.7	63.2
		本年	76	193	149	88	41	26
朝日村古見 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	18.7	15.6	11.4	19.7	37.0	22.0
		本年	52	50	29	35	54	73
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	16.2	14.5	13.2	15.7	13.5	16.8
		本年	20	5	7	5	5	1

平年は2015年から2024年までの平均値
朝日村は2019年から2024年までの平均値

⑬オオタバコガ

フェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では平年と比べ多く、7月の総誘殺頭数は平年値の約4倍であった。
小諸市では、平年と比べ多く、7月の総誘殺頭数は平年値の約3倍であった。
須坂市では、平年と比べやや多かった（第2表）。

第2表 オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	4.0	8.4	10.2	22.2	23.9	28.1
		本年	42	70	81	71	79	42
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	11.2	16.6	16.6	14.5	10.8	12.5
		本年	31	57	69	56	22	27
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまいも ・水稻	平年	2.2	7.8	12.2	13.9	8.6	6.2
		本年	10	21	17	18	8	11

平年は2015年から2024年までの平均値

⑭ヨトウガ類

ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では平年と比べやや多かったが、須坂市ではほぼ平年並であった（第3表）。
ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では、平年と比べ多く、7月の総誘殺頭数は平年値の2.7倍であった。
須坂市では、第1、第2半旬及び第5、第6半旬は平年と比べ少なかったが、第3、第4半旬は平年と比べ多く、7月の総誘殺頭数は平年値の1.4倍であった。
上田市では、ほぼ平年並の誘殺頭数であった（第4表）。
シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺頭数は、塩尻市では、平年と比べ多く、7月の総誘殺頭数は平年値の約3倍であった。
長野市では、ほぼ平年並の誘殺頭数であった（第5表）。

第3表 ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	2.4	2.2	10.9	13.9	19.3	22.7
		本年	6	7	18	18	26	21
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまいも ・水稻	平年	0.6	1.9	2.2	2.1	1.4	0.5
		本年	0	1	1	0	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

第4表 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	17.2	24.3	17.8	19.3	24.2	32.7
		本年	40	77	91	28	40	87
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまいも ・水稻	平年	11.0	16.0	11.9	11.9	30.7	43.6
		本年	2	7	74	48	20	29
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	6.2	6.1	4.7	4.4	5.8	5.5
		本年	0	1	10	2	2	3

平年は2015年から2024年までの平均値

第5表 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	3.2	3.2	3.7	3.9	5.6	7.2
		本年	6	11	20	18	10	13
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	0.4	0.1	0.1	0.1	0.4	0.3
		本年	1	0	3	3	1	1

平年は2015年から2024年までの平均値、長野市は2018年から2024年までの平均値

⑮ウワバ類（アブラナ科野菜）

巡回調査では、東信地域、中信地域、北信地域のキャベツで、被害がみられた。

⑯ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、南信地域、中信地域のねぎで被害がみられた。

⑰アブラムシ類（野菜・花き全般）

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の誘殺頭数は、塩尻市宗賀では第4半旬の誘殺頭数が平年と比べ少なかったが、その他の期間は、平年並～平年と比べ多かった。

小諸では、第1、第2半旬は平年と比べ少なかったが、第3半旬以降は平年と比べ多かった。

上田では、ほぼ平年並であった。

富士見町では、第3半旬頃に発生の谷がみられた。

塩尻洗馬では、第1、第2半旬の誘殺頭数が平年値の5～8倍と、かなり多かったが、第3半旬以降は減少し、平年と比べ少なかった。

長野市では、全般に平年と比べ多かった（第6表）。

第6表 アブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	15.9	12.3	16.3	11.9	14.0	9.4
		本年	21	29	11	2	11	16
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	45.5	22.6	26.8	17.0	9.3	14.6
		本年	18	12	24	35	37	57
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	3.8	2.9	3.0	2.4	2.0	2.3
		本年	4	5	0	0	1	0
富士見町立沢 （地区発生予察ほ）	きく	平年	－	－	－	－	－	－
		本年	11	8	2	6	7	9
塩尻市洗馬 （地区発生予察ほ）	レタス	平年	60.4	65.9	52.9	31.3	22.1	14.9
		本年	493	351	30	3	2	3
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	14.6	7.9	5.5	4.1	3.5	3.9
		本年	21	21	12	9	20	14

平年は塩尻市・小諸市は2017年から2024年までの平均値

上田市・長野市は2018年から2024年までの平均値

富士見町は調査地点変更により平年値無し

⑱アザミウマ類（ネギ、ヒラズイナ、ミカンキイロアザミウマなど）

青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺頭数は、上田市では第1～第3半旬の誘殺頭数は平年と比べやや少なかったが、第4半旬以降は平年と比べやや多かった。

塩尻市では、第1～第3半旬の総誘殺頭数が平年値の約6倍とかなり多かったものの、第4半旬以降は平年と比べ少なかった。

長野市では、全般的に平年と比べ少なかった（第7表）。

第7表 アザミウマ類の青色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	7月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	18.3	31.3	22.0	16.6	14.6	17.4
		本年	10	20	18	22	22	19
富士見町立沢 (地区発生予察ほ)	きく	平年	-	-	-	-	-	-
		本年	83	27	20	52	71	60
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	38.9	34.1	104.0	129.6	155.1	96.9
		本年	207	490	385	43	57	52
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	64.1	39.4	41.4	43.3	48.6	43.0
		本年	5	9	9	8	10	25

平年は塩尻市では2017年から2024年までの平均値

上田市・長野市は2018年から2024年までの平均値

富士見町は調査地点変更により平年値無し